18.北山町（きたやまちょう）

旧村の字名北ノ山に由来する。上町台地の内でも小高い地勢の地域であったことによる。

19.国分町（こくぶちょう）

町域に聖武天皇勅願の国分寺と称する寺院が所在したことに由来する。（史跡等）国分寺は天平13年（741）に、聖武天皇が国家の平安と国民の福利を計り発願して、日本60余州に建てた国分僧寺と国分尼寺で、その総元締めとして奈良に東大寺が建立された。摂津国分寺は、四天王寺と二大寺の絢爛たる難波文化の中心であった。摂津国分寺は、後年疲弊し、延宝8年（1680）黄檗僧南源が来朝し再興したが、その後また衰微し、重ねて昭和19年戦火によって全焼した。

20.小宮町（こみやちょう）

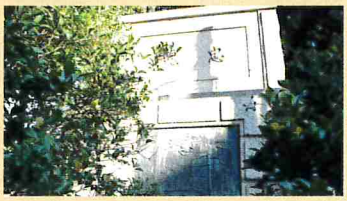
旧天王寺村当時の小字名による。

21.細工谷（さいくだに）

旧天王寺村当時の小字名に由来し、上町台地の東斜面を刻む猫間川水系の浸食谷の地域に当たることによる。

22.真田山町（さなだやまちょう）

明治期に第四師団所属騎兵隊第四聯隊営舎の所在地で俗に真田山の聯隊とよばれていたことに由来する。大阪の陣当時の真田丸の地と誤って伝えられているが、真田丸（真田山）は餌差町の明星高校校地である。



騎兵営跡の碑

23.下寺町（したでらまち）

天王寺村当時の小字名に由来する。小橋寺町・高津寺町（中寺町）が上町台地に所在するのに対し、平地の松屋町筋に沿った寺町であることによる。（史跡等）当町域は江戸時代初期からの寺町にあたるため各寺院には著名人が多く眠る。元禄期の狂歌師鯛屋貞柳は光伝寺に、町人学者富永仲基は西照寺に、心学静安舎の中井利安と絵師の大岡春卜、春川は光明寺に眠る。南端の遊行寺には歌舞伎役者や義太夫節・常盤津などの芸能人や力士が多数眠る。

24.四天王寺（してんのうじ）

昭和56年3月2日の住居表示の実施にともない、元町、椎寺町、上綿屋町、東門町が整理されて四天王寺町一・二丁目となった。

四天王寺 西門石の鳥居

＜元町＞昭和56年の住居表示の実施により現在の四天王寺町一丁目、大道一丁目の一部となり、現在、町名は残っていない。四天王寺を町域の中心にもつ天王寺の元点であることに由来する。

＜椎寺町＞昭和56年の住居表示の実施により現在の四天王寺町一丁目の一部（四天王寺の東街区）となり、現在、町名は残っていない。往時、四天王寺の薬師堂は椎寺の俗称で知られていたことに由来する。

＜上綿屋町＞昭和56年の住居表示の実施により現在の四天王寺町一丁目の一部（四天王寺の北街区）となり、現在、町名は残っていない。江戸時代から既に当町域の北側道路に面した東西の町を綿屋町と俗称していたことに由来する。木綿問屋もしくは綿屋の屋号をもつ豪商が居住していたと考えられている。

＜東門町＞時の勝山通一丁目の一部に東門前の旧名があり、紺屋町（当町を含む旧町）の接続地であったことと町域が四天王寺東門に接し関わりが密接であることに由来する。昭和58年の住居表示にともない現在の四天王寺二丁目、勝山一丁目の各一部となり、現在、町名は残っていない。

25.清水谷町（しみずだにちょう）

旧村当時の小字名に由来する。谷筋に町域が所在するところから採用された。

26.下味原町（しもあじはらちょう）

冠称の「下」は木野村当時の小字名が示すように、味原池の下（南）に位置したことによる。

27.城南寺町（じょうなんてらまち）

江戸時代初期に東高津寺町として寺院を集合させた町域にあたり、しかも大阪城の真南に位置することに由来する。

28.真法院町（しんぽういんちょう）

旧村当時の小字名による。古来の真法院が存在した遺称を小字名に採り入れ残したことによる。

29.大道（だいどう）

町域を通る亀の瀬越奈良街道が古来の横大道を踏襲した道筋であるという伝承に由来する。

30.玉造本町（たまつくりほんまち）

古代氏族の玉作氏または玉作部の居住地域にあたることに由来